

セルフモニタリング報告書（令和7年度分）

令和 8 年 4 月 30 日

施設名：出光カルチャーパーク（市民文化公園）

指定管理者名：苫小牧造園協同組合

所管課名：都市建設部 緑地公園課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	施設の管理運営は、事業計画に従い持続可能な運営を確保するため提案した事業を迅速に実行に移し、事業計画を上回り適切に管理運営にあたった。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	サンガーデンの入館者は昨年より3,694人と減少してはいるが、例年まで開催されていた大きなイベントの会場変更が利用者数に影響しているが、季節ごとのイベント飾り展示などを工夫して実施したことから利用者数の増につなげ利用者減も最小限にとどめることが出来ている。公園利用者は老朽化した施設の修繕や芝生管理の充実など施設環境改善を積極的に行った結果と夏場のスマホゲームイベントの影響などで31,000人増加し大きく目標を超えることが出来た。また、展示実習利用も前年度より9件増加し利用料金収入増に転じることが出来た。全体的には、昨年の実績を上回ることが出来た。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		—	—	—	—	—
自主事業は計画どおり行われたか。	共催事業の1事業で、主催者の都合により事業を取りやめたため実施できなかったが、その他の事業については計画を上回り実施することが出来た。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地域の保育園や幼稚園に事業参加をいただいた。また、高校生ボランティア局を受け入れ社会参加の受け入れ先となっている。苫小牧造園組合加盟会社等と連携し隣接道路の清掃作業を実施した。	A	B	C	D	E

2. 利用者の満足度					
利用者の満足が得られているか。	利用者アンケート調査結果でも、満足又はやや満足と回答いただいた方が、全体の96%と高い評価を受けていることから、利用者の満足は得られている。	A	B	C	D E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	意見箱による意見や要望の受付やQRコードによるアンケート調査を1年通して実施し、年末には記述式によるアンケート調査を追加して実施して、意見要望について適切な把握に努めている。	A	B	C	D E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	寄せられて意見については、特に慎重な対応が求められることから、迅速に問題解決に向けた行動を取った。根本原因の特定に努め再発防止策を立案し、全職員に向けて情報共有を行い対処方法について適切にかつ迅速に対応している。	A	B	C	D E
3 管理運営の効率性					
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	節電対策としてLED化を進めていることや剪定伐採木の再利用の観点から薪やリースなどを作成し販売することで廃棄物の減量化に努めており、経費節減に積極的に取り組みを行っている。	A	B	C	D E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	関係法令に基づく法定点検や資格や専門的な知見を要する業務及び特殊な機材を必要とする業務、夜間の警備業務などに外部委託を活用し、効果的な管理と経費節減に努めて取り組んでいる。	A	B	C	D E
収入増加のための取組はされているか。	展示実習室の利用増進ために、自主事業により園芸や地元の専門家による講座を各種開催し多くの市民に貸館のPRを行って、テーマに基づいた講義や実践を行い、体験を通じて学べる機会を提供することで利用者の参加を促して、展示実習室の活用法を広めて収入増加に努めています。また、剪定枝や伐採木を再資源化することにより、薪やリース材料などに木材加工して販売することで需要が高まり新たな収入源となっている。	A	B	C	D E
4 適正な管理運営					
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	管理業務遂行のため、定期的に職員研修を実施したことをはじめ、職員のスキルアップを図るため、外部で行わた講習会などにも積極的に参加した。また、資格取得を促進し、公園管理運営士・グリーンアドバイザーの認定資格を取得した。今後も、これまでの取り組みを基にさらなる研修内容を充実し、新たな資格取得の検討や職員のニーズを常に把握し、環境の変化に応じた適切なサポートを行い継続的な能力向上を目指し取り組みを行います。	A	B	C	D E

安全対策（事故防止等）は十分だったか。	労働環境における潜在的な危険を特定するため、定期的な安全対策会議を実施し、事故の原因となる要素を事前に把握し、適切な対策を講じることに努めている。職員同士のコミュニケーションにより問題が発生した際にはすぐに報告し合える体制を整え、情報共有を行い早期の対策が可能となるように努めている。	A	B	C	D	E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	管理業務が一部の職員においては過剰な負荷がかからないように、毎日の朝礼や定期的に開催する意見交換会や安全会議を利用して意見を聞いて、職員のパフォーマンス向上と組織全体の生産性向上に努めている。	適			不適	
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	「苫小牧市都市公園条例」「苫小牧市サンガーデン管理規則」などの定めに従い、適切に処理を行っている。	適			不適	
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	個人情報に係る書類などは、鍵のかかる所に保管し適切に管理を行っている。	適			不適	
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	適正に処理を行っている。	適			不適	
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に実施している。	適			不適	
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に管理している。	適			不適	
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	関係法令に従い適正に管理している。	適			不適	
5 地域貢献						
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地域の雇用機会を創出するため地元の人材を優先的に採用しています。資材調達においても、地域内での調達比率向上させ地元での取引を増やすことで地域貢献に寄与しています。	A	B	C	D	E

A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。

- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

＜ 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について ＞

指定管理者の自己評価（全体を通して）

苫小牧サンガーデンでは、冬の間に緑が失われがちな室内環境において、持続的な緑の確保と花の飾りを実現するための取り組みを行っています。冬に咲く花や香りのある植物の育成に重点を置き、苫小牧地域で一般的には見られない花や木があることは高く評価されています。それらを活用して来館者に喜ばれる施設になるように、サクラ開花予想クイズや館内ステージを中心に季節のイベント飾りの実施や園芸講座やハーブ講座などの緑に関する講座を自主事業として数多く実施して、地域みなさんに好評をえております。また、地域で活動している団体のみなさんの発表の場として会議や展示会などにも活用され、多くの来館者が訪れております。当施設にお越しいただき緑を身近に感じていただくことで、緑化啓発や緑化推進に役立つ出来ていると考えております。その結果は、利用者アンケート調査においても、「満足」「やや満足」で96%と高い評価をいただいています。苫小牧市サンガーデンは、地域社会において持続可能な美しさを追求し冬の厳しい条件下でも植物が育つことを実現し、お客様に喜ばれる空間を提供することに尽力しています。引き続き、冬季の室内庭園の緑化に向けての取り組みを進め、地域の皆様に愛される庭園を作り上げてまいります。

市民文化公園は、市内中心部にあり図書館や美術博物館があることから地域住民にとっての貴重な憩いの場であり、その管理は非常に重要となっています。その中、老朽化した施設の改善、芝生広場の芝管理、老木管理に関する課題が多くあります。老朽施設の改善では、公園内に存在する老朽施設（トイレ、ベンチ、遊具等）は、使用効率が低下し、訪れる人々に不便を感じさせることになるため、これらの施設を早急に点検し、発見された問題点を修繕または更新することで来園者の快適な利用を促進に努力しています。草刈り頻度の向上について、特に芝生広場の芝管理を強化するため、草刈りの頻度を上げることが必要です。芝生が美しく整備されることで、訪れる方々はリラックスした時間を過ごすことができます。具体的には、月に2回の草刈りを目指し、季節に応じて運用頻度を調整します。老木の管理について、公園内の老木は枯木が目立ち、そのまま放置することは安全面でも問題があります。可能な限り伐採および剪定を行い、公園の見た目にも配慮して実施しています。伐採した木材については、再利用を図り、薪やリース材料として販売することで収益化を図ることも視野に入れています。このプロセスは地域経済にも貢献する一步となっています。これらの改善によって、公園の利便性を向上させるだけでなく、地域住民が公園をより一層愛する理由となると考えます。

また、今後の公園の評価にも大きく寄与することと思います。